

「科学と実践との対話- 自然再生と震災復興」

日 時:平成24年5月20日(日)13:30~16:30

場 所:一関市知勝院会館

〒021-0102 岩手県一関市萩荘字栃倉73-193

定員 50名 参加費無料・要参加申込み

開催趣旨

東日本大震災から1年以上を経て、被災地では復興に向けた議論のみならず、さまざまな具体的な動きがはじまっている。しかし、そこでは、自然環境の保全や再生を視野に入れた計画や実践は十分とはいえず、生態系、生物多様性、あるいは野生生物へのまなざしは概して弱い。そのような状況下において、社会的目標としての自然環境の保全再生、地域再生の手段としての「自然再生」の可能性について、科学と実践の両面から情報を整理することの重要性は大きいものと考えられる。

ここで提案する公開講演会は、岩手県一関市で、自然再生推進法にもとづく自然再生協議会を結成し、樹木葬や外来生物対策などの手法により、イーハートーブ世界と名付けた「さとやま」の自然再生を実践している久保川流域の自然再生事業をモデルの一つとして取り上げて現地で開催するフォーラムである。自然環境保全再生分科会およびワイルドライフサイエンス分科会メンバーの専門的かつグローバルな見地からの情報提供と実践者からの地域での実践に根ざした報告を踏まえ、「自然再生」が東日本大震災からの被災地の復興において潜在的に果たしうる役割について、公開の「科学と実践との対話」を行う。また、あわせて、ワイルドライフサイエンスの見地から、地球規模での生態系の大規模な変化について、第三・第四の極域に注目した問題提起を行う。

次 第 13:30 ~ 16:20

・あいさつ

「一関市教育委員会から」

「日本学術会議の紹介」

「ワイルドライフサイエンス分科会から」

・「震災復興と自然再生」

・「樹木葬と震災復興」

・「樹木葬とイーハートーブの自然再生」

・「イーハートーブの外来種対策」

休憩

・「第3・第4の極の今」

・「蘇った自然を生かし活かすために」

・意見交流

藤堂隆則（一関市教育委員長）

鷺谷いづみ（東京大学）

山極寿一（京都大学）

一ノ瀬友博（慶應義塾大学）

池邊このみ（千葉大学）

千坂げんぼう（知勝院）

久保川イーハートーブ自然再生研究所

幸島司郎（京都大学）

鷺谷いづみ（東京大学）



主催

日本学術会議統合生物学委員会
ワイルドライフサイエンス分科会・環境学委員会自然環境保全再生分科会

共催

一関市教育委員会・久保川イーハートーブ自然再生協議会

後援

IBC岩手放送、朝日新聞盛岡総局、岩手朝日テレビ、岩手日日新聞社、岩手日報社、NHK盛岡放送局、河北新報社、産経新聞盛岡支局、テレビ岩手、毎日新聞盛岡支局、めんこいテレビ、読売新聞盛岡支局

参加申込みは以下の連絡先に、電話・FAX・メールのいずれかにてご氏名・ご所属・電話番号を明記の上ご連絡ください。

参加申込み・お問い合わせ先

東京大学大学院 農学生命科学研究科 保全生態学研究室

電話: 03-5841-8915 Fax: 03-5841-8916

E-mail: hozenseitai418739@gmail.com